

いわゆる「悪口を示すことば」使用に対する抵抗感の検討

大久保由紀・八藤後忠夫

An Examination of Resistance to “Abusive Language”

Yuki Ohkubo · Tadao Yatougo

ABSTRACT: An investigation for 279 university students, resulted in the following conclusions.

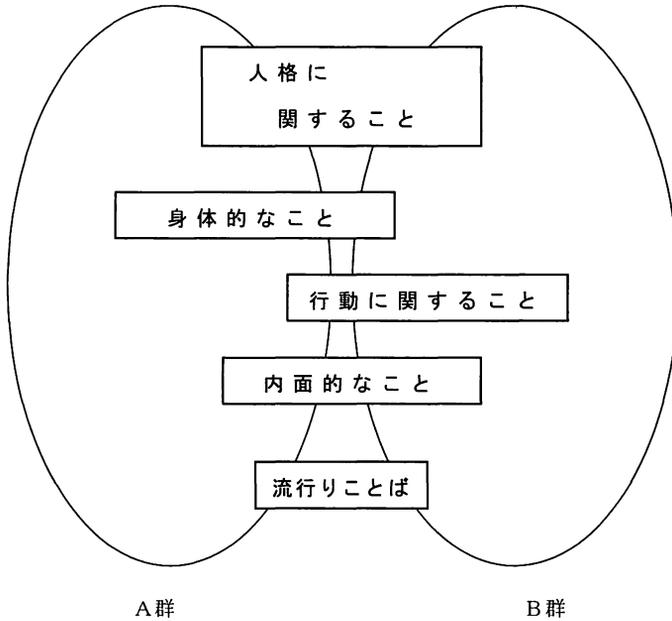
- 1) Resistance to “abusive language” was shown to be significantly higher in the control group than in the object group. The working hypothesis was formed from this result.
- 2) High resistance in the object group was significantly shown only in the “the nursing family”.
- 3) Both object and control groups had a high resistance score of toward language on “physical region”. A low resistance score was also confirmed both groups on language concerning “the region on the actions of the partners” and “the region on the inner matters of the partner”.
- 4) In all inter-group comparisons, Resistance to the language use concerning “people who are not so intimate with the subject” was significantly high. Especially in cases of “dispute”.
- 5) University students of nursing and psychology and welfare (the object group) had low resistance. However, it is be not appropriate to postulate their lack of their sensitivity toward “abusive language” from this.

I 緒論

私たちが普段使っていることばには、侮蔑を表す「悪口」などの軽卑語が多く含まれている。西野（西野 a, 1995）は「悪口」に伴う感情として、不愉快、怒り、憎さの他に、『親しさ』があると報告し、その両義性を指摘している。この両義性については、黒沢（黒沢 a, 1999）も、相手を悪く形容する「悪口」が、いつも怒りをもって発せられるわけではなく、むしろ言葉の意味とは逆に親しみや愛情がこめられていることも多い点を指摘し、言葉そのものもつ意味と心との間にはその場面、文脈によって大きな違いがあることを報告している。つまり「悪口を示すことば」は一方で我々のコミュニケーション手段のひとつであることを示していると考えられよう。しかし、この「悪口を示すことば」の中には、人の弱点をついたものや、人を傷つけることば、差別用語など、一般的に使用することに問題があると言えることばも当然多く入っていると考えられる。このようなことばを人とのやりとりの中で使用することに対して、私たちはどのような意識を持っているのだろうか。本稿では大学生を対象とし、図1のモデルに従い、「悪口を示すことば」を使用することによるどの程度抵抗を感じているのかを具体的に検討する。対象は、ことばの使用に対する理解が特に重要だと考えられる福祉、看護、心理系の職業を目指している大学生と、その他の大学生を選び、その比較から大学生の意識の具体的傾向を把握することを本研究の目的とする。

いわゆる「悪口を示すことば」使用に対する抵抗感の検討

「悪口を示すことば」を使用することへの抵抗感



A群（対象群）；福祉、看護、心理系の職業を目指す学生群
B群（統制群）；上記の職業を目指していない学生群

図1 研究の枠組み

II 対象と方法

1 対象

「悪口を示すことば」をコミュニケーション手段として最も多く使用しているのは小学生であると考えられる。これは、一人当たりが使う悪口数は男女とも小学生が最も多い、と西野（西野b, 1995）が報告していることから明らかである。しかし、この調査自体が小学生のことばによるいじめやひやかしを助長する恐れがあるということを考え、あえて

小学生または中高生を対象とはしなかった。このような理由から、「悪口を示すことば」の使用頻度が高い世代と一番年齢が近い大学1年生を本調査の対象とすることにした（#1）。

#1 対象とした大学生

- ① S 県立大学 保健医療福祉学部社会福祉学科・看護学科
 - ② 私立 B 大学 人間科学部臨床心理学科
 - ③ 国立 S 大学 教養学部・経済学部・工学部
-

上記の3大学の大学1年生を対象に選び、調査を行った。

- ①②の学生を対象群、③の学生を統制群とした。
- 調査には無記名の質問紙法を用いた。

2003年12月5日～12月15日のいずれかの日の授業時間内に学生に調査票を配布し、その場で回答してもらい回収するという形をとった。配票と回収については、事前に各授業の担当教員に研究の趣旨を説明し依頼した。対象学生309名に配布した結果、有効回答数は279名、回収率は78%であった。

2 方法

得られたデータの統計解析は、2群間の母平均値の差の確認には、スチューデントの t 検定を使用し、3群以上の母平均値の差の確認は一元配置分散分析と対比較（Scheffe の方法）によった。質問項目は、全て順位の尺度（1～5）で回答されている。質問項目に対して「全く抵抗を感じない」という回答が「1」、「あまり抵抗を感じない」という回答が「2」、「どちらともいえない」という回答が「3」、「やや抵抗を感じる」という回答が「4」、「非常に抵抗を感じる」という回答が「5」となっている。これら「1～5」をそのまま1点～5点にして得点化し、それを抵抗度の尺度（抵抗度得点）とした。つまり、5点が最も抵抗度が高いということである。t 検定では、その得点の平均値を対照群と統制群

2群とで比較した。性差の比較も行った。一元配置分散分析と対比較では、その得点の平均値を3群で比較した。①対象群内の比較（看護学科、福祉学科、臨床心理学科の3群）、②統制群内の比較（教養学部、経済学部、工学部の3群）である。推計学的有意水準は、危険率5%未満を基準とした。

なお統計処理には、現代数学社版パーソナルコンピュータパッケージHALWINを用いた。

3 本研究における「悪口を示すことば」の定義

山田（1985）の調査では、『子どもたちが深く傷つく悪口』として、〔性格・性質のこと〕、〔身体やスタイル・顔などのこと〕、〔行動や態度のこと〕についての「悪口」が上位に挙げられている。また、畑中（2003）の調査では、〔相手を否定することば（「死ね」等）〕、〔体格や性格の特徴を示すことば（「デブ・ブス」等）〕、〔相手を脅かすことば（「バカ」等）〕が、小学生が使用する「悪口を示すことば」の上位を占めている。これらの調査結果を踏まえ、本調査では「悪口を示すことば」を、以下の5領域（#2）に分類した。

#2 「悪口を示すことば」の5領域

-
- 1) 身体的なこと ; 相手の外見的特徴をついたことば群
 - 2) 内面的なこと ; 相手の性格、内面的な特徴をついたことば群
 - 3) 行動に関すること ; 相手の行動や態度をついたことば群
 - 4) 人格に関すること ; 相手の人格を否定するようなことば群
 - 5) 流行りことば ; 現在の流行語として流布していることば群
-

なお、出自に関するもの並びにきわめて強烈なインパクトのある語はここから除外した。西野（西野c, 1995）は、北海道、福島県、沖縄県の3つの地域で小学生、中学生、高校生、大学生・社会人が「悪口」と

して使用していることばの中から、各地域の年代別・男女別にそれぞれ使用頻度の高い上位5語をとり上げ報告している。それぞれの地域で共通して使われていたことばは、「バカ」「むかつく」「デブ」「ハゲ」「きもい」「ふざけるな」「死ね」などである。これらのことばは、各地域で男女、年代を問わずよく使われているようであった。そこで本調査では、これらの各世代によく使用されていることばを中心に、「悪口を示すことば」の代表的なものとして、以下の20項目を選び、5領域の中に分類した。各ことばについては回答者が普段使っている表現形態にできる限り近づけたかったため、名詞形のみなどに限定せず、直接表現体のままにした。

会話における「悪口を示すことば」

- 第1領域 身体的なこと : ・ダサイ (9) ・デブ (10) ・ハゲ (13)
・ブス (16) ・チビ (19) の5項目
- 第2領域 内面的なこと : ・バカ (1) ・まぬけ (5) ・クライ「暗い」 (17) の3項目
- 第3領域 行動に関すること : ・うるさい (3) ・とろい (8) ・でしゃばり (12) ・ふざけるな (14) の4項目
- 第4領域 人格に関すること : ・邪魔 (2) ・最低 (6) ・死ね (11) ・嫌い (18) の4項目
- 第5領域 流行りことば : ・きもい (4) ・自己中 (7) ・うざい (15)
・むかつく (20) の4項目 計20項目

() 内の数字は、調査票での質問項目番号に対応する。なお、調査票の質問文においては、同じ領域のことばが続くことを避け、5領域のこ

とばが不規則に並ぶように配列した。

4 場面の設定

本調査では、20項目の「悪口を示すことば」を使用することへの抵抗度の違いの比較をするにあたって、会話における4つの場面を設定した。この「悪口を示すことば」を使用する4つの場面は、「2つの状況×2つの相手」から構成されている。これらの各場面によって、「悪口を示すことば」を使用することへの抵抗度得点の比較をすることとした。

◆使用する状況として、

- A なごやかな日常会話の場面において
- B 激しい言い争いの場面において

◆使用する相手として、

- C 家族・友人など自分にとって親しい人
- D 顔見知り程度などの自分とそれほど親しくない人

5 調査項目

調査票（文末添付資料）の質問項目と内容は、以下の通りである。なお、この調査票は図1の研究の枠組みに対応している。

- ①日常会話（軽い冗談などを交えたなごやかな会話）の場面で、自分の親しい人（家族・友人など）に対して、20項目の「悪口を示すことば」を使用することへの抵抗感
- ②日常会話（軽い冗談などを交えたなごやかな会話）の場面で、自分とそれほど親しくない人（顔見知り程度など）に対して、20項目の「悪口を示すことば」を使用することへの抵抗感
- ③言い争いの場面で、自分の親しい人（家族・友人など）に対して、20項目の「悪口を示すことば」を使用することへの抵抗感

- ④言い争いの場面で、自分とそれほど親しくない人（顔見知り程度など）
 に対して、20項目の「悪口を示すことば」を使用することへの抵抗感
- ⑤基本属性（性、年齢、所属大学・学部・学科）

Ⅲ 結果

1 対象の基本属性

1) 対象の性別		人
カテゴリ	度数	%
男	81	(29.0)
女	198	(71.0)
計	279	(100.0)

※ %は列に対する割合

2) 対象・統制群の分布		度数	(%)
カテゴリ			
対象群			
S 県立大学	保健医療福祉学部社会福祉学科	18	(6.0)
S 県立大学	保健医療福祉学部看護学科	37	(13.0)
私立B 大学	人間科学部臨床心理学科	148	(53.0)
統制群			
国立S 大学	教養学部	33	(12.0)
国立S 大学	経済学部	26	(9.0)
国立S 大学	工学部	16	(6.0)
計		278	(100.0)

#欠損値 1名（学部不明）%は列に対する割合

2 群間における「悪口を示すことば」の使用への抵抗感

以下、推計学的に有意な項目を中心に記述する。

1) 身体的領域

「ブス」については、「④言い争いの場面で、自分とそれほど親しくない人に対して使用」においてのみ、統制群の抵抗度得点が有意に高く示された ($p < .05$) (表 1-1)。「チビ」については、「②日常会話の場面で、

自分とそれほど親しくない人に対して使用」(p<.05)、「④言い争いの場面で、自分とそれほど親しくない人に対して使用」(p<.05)においてのみ、統制群の抵抗度得点が有意に高く示された(表1-2)。

2) 内面的領域

「バカ」については、「②日常会話の場面で、自分とそれほど親しくない人に対して使用」においてのみ、統制群の抵抗度得点が有意に高く示された(p<.05)(表1-3)。

3) 行動に関する領域

4つのどの場面においても、2群間に有意な抵抗度得点の差は確認されなかった。

4) 人格に関する領域

「最低」については、「③言い争いの場面で自分の親しい人に対して使用」においてのみ、統制群の抵抗度得点が有意に高かった(表1-4)。

5) 流行りことばの領域

「自己中」については、「③言い争いの場面で、自分の親しい人に対して使用」においてのみ、統制群の抵抗度得点が有意に高く示された(p<.05)(表1-5)。

表1-1 身体的なこと・「ブス」ということばを使用することへの抵抗度得点の比較

場面	群	人数	平均値	標準偏差	有意水準
①日常会話の場面で、自分の親しい人に対して使用	A	201	4.114	1.197	n.s
	B	75	4.160	1.175	
②日常会話の場面で、自分とそれほど親しくない人に対して使用	A	202	4.668	0.756	n.s
	B	73	4.685	0.705	
③言い争いの場面で、自分の親しい人に対して使用	A	202	3.767	1.353	n.s
	B	73	3.904	1.314	
④言い争いの場面で、自分とそれほど親しくない人に対して使用	A	203	4.064	1.231	*
	B	74	4.392	1.044	

A：対象群 B：統制群

*p<.05 n.s 有意差なし

表 1-2 身体的なこと・「チビ」ということばを使用することへの抵抗度得点の比較

場面	群	人数	平均値	標準偏差	有意水準
①日常会話の場面で、自分の親しい人に対して使用	A	203	3.330	1.322	n. s
	B	73	3.616	1.329	
②日常会話の場面で、自分とそれほど親しくない人に対して使用	A	202	4.262	1.054	*
	B	73	4.548	0.867	
③言い争いの場面で、自分の親しい人に対して使用	A	203	3.163	1.462	n. s
	B	74	3.554	1.500	
④言い争いの場面で、自分とそれほど親しくない人に対して使用	A	201	3.657	1.409	*
	B	73	4.137	1.228	

A : 対象群 B : 統制群

* $p < .05$ n. s 有意差なし

表 1-3 内面的なこと・「バカ」ということばを使用することへの抵抗度得点の比較

場面	群	人数	平均値	標準偏差	有意水準
①日常会話の場面で、自分の親しい人に対して使用	A	203	2.547	1.207	n. s
	B	75	2.400	1.127	
②日常会話の場面で、自分とそれほど親しくない人に対して使用	A	203	4.212	0.985	*
	B	75	4.453	0.741	
③言い争いの場面で、自分の親しい人に対して使用	A	203	2.389	1.227	n. s
	B	75	2.520	1.427	
④言い争いの場面で、自分とそれほど親しくない人に対して使用	A	202	3.446	1.403	n. s
	B	75	3.627	1.496	

A : 対象群 B : 統制群

* $p < .05$ n. s 有意差なし

表 1-4 人格に関すること・「最低」ということばを使用することへの抵抗度得点の比較

場面	群	人数	平均値	標準偏差	有意水準
①日常会話の場面で、自分の親しい人に対して使用	A	201	3.284	1.251	n. s
	B	73	3.301	1.063	
②日常会話の場面で、自分とそれほど親しくない人に対して使用	A	201	4.478	0.895	n. s
	B	75	4.480	0.891	
③言い争いの場面で、自分の親しい人に対して使用	A	203	2.596	1.351	*
	B	75	3.000	1.498	
④言い争いの場面で、自分とそれほど親しくない人に対して使用	A	202	3.421	1.384	n. s
	B	75	3.733	1.398	

A : 対象群 B : 統制群

* $p < .05$ n. s 有意差なし

表 1-5 流行りことば・「自己中」ということばを使用することへの抵抗度得点の比較

場面	群	人数	平均値	標準偏差	有意水準
①日常会話の場面で、自分の親しい人に対して使用	A	203	3.571	1.285	n. s
	B	73	3.653	1.133	
②日常会話の場面で、自分とそれほど親しくない人に対して使用	A	202	4.470	0.876	n. s
	B	74	4.514	0.848	
③言い争いの場面で、自分の親しい人に対して使用	A	203	2.695	1.326	*
	B	75	3.120	1.506	
④言い争いの場面で、自分とそれほど親しくない人に対して使用	A	203	3.414	1.370	n. s
	B	74	3.689	1.470	

A：対象群 B：統制群

* $p < .05$ n. s 有意差なし

以上の結果から、統制群の抵抗度得点が有意に高く示されたことばについて、場面ごとに以下にまとめる。2場面以上で有意差の見られたことばについては、太字で示す。

- ◆①の場面・・・いずれのことばにも有意差はなかった。
- ◆②の場面・・・「**チビ**」「**バカ**」
- ◆③の場面・・・「**最低**」「**自己中**」
- ◆④の場面・・・「**デブ**」「**ブス**」「**チビ**」
「**クライ (暗い)**」「**むかつく**」

有意差が見られたことばについては、対象群では全て抵抗度得点が低く示され、図 1 のモデルに内包された作業仮説は棄却された。そこで、次に対象群・統制群別に、抵抗度得点の差を比較し、男女差も検討することとした。

3 対象群における「悪口を示すことば」の使用への抵抗感

「悪口を示すことば」について、所属別の 3 群（社会福祉学科、看護学科、臨床心理学科）間で、抵抗度得点の分散分析を行った。

1) 身体的領域

「デブ」については、「①日常会話の場面で、自分の親しい人に対して

使用」においてのみ、3群間の有意差が認められた ($p < .01$)。対比較の結果、「①日常会話の場面で、自分の親しい人に対して使用」において、社会福祉学科が看護学科、臨床心理学科に比べて抵抗度得点が有意に低いことが示された(表2-1)。「プス」については、「①日常会話の場面で、自分の親しい人に対して使用」($p < .001$)、「④言い争いの場面で、自分とそれほど親しくない人に対して使用」($p < .05$)においてのみ、3群間の有意差が認められた。対比較の結果、「①日常会話の場面で、自分の親しい人に対して使用」において、社会福祉学科が看護学科、臨床心理学科に比べて抵抗度得点が有意に低いことが示された。また、「④言い争いの場面で、自分とそれほど親しくない人に対して使用」において、臨床心理学科が看護学科に比べて抵抗度得点が有意に低いことが示された(表2-2)。

2) 内面的領域

「バカ」については、「④言い争いの場面で、自分とそれほど親しくない人に対して使用」においてのみ、3群間の有意差が認められた($p < .01$)。対比較の結果、「④言い争いの場面で、自分とそれほど親しくない人に対して使用」において、臨床心理学科が社会福祉学科、看護学科に比べて抵抗度得点が有意に低いことが示された(表2-3)。

3) 行動に関する領域

「うるさい」については、「③言い争いの場面で、自分の親しい人に対して使用」($p < .001$)、「④言い争いの場面で、自分とそれほど親しくない人に対して使用」($p < .001$)においてのみ、3群間の有意差が認められた。対比較(多重比較)の結果、「③言い争いの場面で、自分の親しい人に対して使用」において、臨床心理学科が社会福祉学科、看護学科に比べて抵抗度得点が有意に低く示された。「④言い争いの場面で、自分とそれほど親しくない人に対して使用」においても、臨床心理学科が社会

福祉学科、看護学科に比べて抵抗度得点が有意に低く示された（表 2-4）。「ふざけるな」については、「③言い争いの場面で、自分の親しい人に対して使用」（ $p = .000$ ）、「④言い争いの場面で、自分とそれほど親しくない人に対して使用」（ $p < .001$ ）においてのみ、3 群間の有意差が認められた。対比較の結果、「③言い争いの場面で、自分の親しい人に対して使用」において、臨床心理学科が社会福祉学科、看護学科に比べて抵抗度得点が有意に低く示された。「④言い争いの場面で、自分とそれほど親しくない人に対して使用」においても、臨床心理学科が社会福祉学科、看護学科に比べて抵抗度得点が有意に低く示された（表 2-5）。

4) 人格に関する領域

「死ぬ」については、「④言い争いの場面で、自分とそれほど親しくない人に対して使用」においてのみ、3 群間の有意差が認められた（ $p < .05$ ）。しかし対比較の結果、「④言い争いの場面で、自分とそれほど親しくない人に対して使用」において、社会福祉学科・看護学科・臨床心理学科の間に有意な得点差は示されなかった（表 2-6）。

5) 流行りことばの領域に関しては、特記すべき傾向は示されなかった。

表 2-1 身体的なこと・「デブ」ということばを使用することへの抵抗度得点の比較（対象群）

場面	所属	人数	平均値	標準偏差	有意水準
①日常会話の場面で、自分の親しい人に対して使用	社会福祉	18	3.278	1.239	**
	看護	37	4.432	0.946	
	臨床心理	147	4.116	1.181	

一元配置分散分析

** $p < .01$

表2-2 身体的なこと・「ブス」ということばを使用することへの抵抗度得点の比較(対象群)

場面	所属	人数	平均値	標準偏差	有意水準
①日常会話の場面で、自分の親しい人に対して使用	社会福祉	18	3.111	1.329	***
	看護	37	4.351	0.992	
	臨床心理	146	4.178	1.163	
④言い争いの場面で、自分とそれほど親しくない人に対して使用	社会福祉	18	4.167	0.898	**
	看護	37	4.541	0.757	
	臨床心理	148	3.932	1.324	

一元配置分散分析 *p<.05 **p<.01 ***p<.001

表2-3 内面的なこと・「バカ」ということばを使用することへの抵抗度得点の比較(対象群)

場面	所属	人数	平均値	標準偏差	有意水準
④言い争いの場面で、自分とそれほど親しくない人に対して使用	社会福祉	17	4.235	0.876	*
	看護	37	3.919	1.239	
	臨床心理	148	3.236	1.425	

一元配置分散分析 *p<.05 **p<.01 ***p<.001

表2-4 行動に関すること・「うるさい」ということばを使用することへの抵抗度得点の比較(対象群)

場面	所属	人数	平均値	標準偏差	有意水準
③言い争いの場面で、自分の親しい人に対して使用	社会福祉	18	2.722	1.407	**
	看護	36	2.778	1.227	
	臨床心理	148	2.027	1.026	
④言い争いの場面で、自分とそれほど親しくない人に対して使用	社会福祉	18	4.111	0.994	*
	看護	37	3.838	1.284	
	臨床心理	148	3.054	1.451	

一元配置分散分析 *p<.05 **p<.01 ***p<.001

表2-5 行動に関すること・「ふざけるな」ということばを使用することへの抵抗度得点の比較(対象群)

場面	所属	人数	平均値	標準偏差	有意水準
③言い争いの場面で、自分の親しい人に対して使用	社会福祉	18	3.611	1.380	***
	看護	37	2.892	1.429	
	臨床心理	147	2.102	1.199	
④言い争いの場面で、自分とそれほど親しくない人に対して使用	社会福祉	18	4.333	0.816	***
	看護	37	3.811	1.249	
	臨床心理	147	2.939	1.434	

一元配置分散分析 *p<.05 **p<.01 ***p<.001

表 2-6 人格に関することば・「死ね」ということばを使用することへの抵抗度得点の比較 (対象群)

場面	所属	人数	平均値	標準偏差	有意水準
④言い争いの場面で、自分とそれほど親しくない人に対して使用	社会福祉	18	4.611	0.678	n. s
	看護	36	4.667	0.577	
	臨床心理	146	4.171	1.273	

一元配置分散分析 主効果のみで有意 *p<.05

以上の結果から、3群間に有意な抵抗度得点の差が示されたことばについて、場面ごとにまとめる。2場面以上で有意差が見られたことばについては、太字で示す。

◆①の場面	「デブ」「ブス」「まぬけ」「とろい」
◆②の場面	「まぬけ」
◆③の場面	「うるさい」「でしゃばり」 「ふざけるな」「邪魔」「最低」「嫌い」 「自己中」「うざい」「むかつく」
◆④の場面	「ダサい」「ブス」「バカ」「まぬけ」 「うるさい」「でしゃばり」 「ふざけるな」「邪魔」「最低」「死ね」「嫌い」 「きもい」「自己中」「うざい」「むかつく」

4 統制群における「悪口を示すことば」の使用への抵抗感

教養学部において、①・③の「自分の親しい人に対して使用」のときに、他の2学部 of 学生よりも抵抗度得点が有意に高い傾向が確認された。また、3群間に有意な抵抗度得点の差が示されたことばについて、以下のように場面ごとにまとめる。2場面以上で有意差が確認されたことばについては、太字で示す。

◆①の場面	「デブ」「ハゲ」「ブス」 「クライ (暗い)」
◆②の場面	「ダサい」「デブ」「うるさい」 「ふざけるな」「うざい」「むかつく」
◆③の場面	「ダサい」
◆④の場面	「デブ」「ブス」「でしゃばり」

5 男女間における「悪口を示すことば」の使用への抵抗感

「悪口を示すことば」使用への抵抗度得点が全て女性群に有意に高く示された。特に身体的領域において顕著であった。それらのことばについて、場面ごとに以下のようにまとめる。2場面以上で有意差が見られたことばについては、太字で示す。

- ◆①の場面・・・「**ダサイ**」「**デブ**」「**ブス**」
「クライ（暗い）」「でしゃばり」
「ふざけるな」「死ね」「自己中」
- ◆②の場面・・・「**デブ**」「**ブス**」「**バカ**」「うるさい」
「でしゃばり」「ふざけるな」「**最低**」
「死ね」「自己中」「うざい」
- ◆③の場面・・・「**ダサイ**」「**デブ**」「**ハゲ**」「**ブス**」
「でしゃばり」「死ね」
- ◆④の場面・・・「**ダサイ**」「**デブ**」「**ハゲ**」「**ブス**」
「チビ」「バカ」「まぬけ」
「クライ（暗い）」「うるさい」
「とろい」「でしゃばり」「ふざけるな」
「邪魔」「**最低**」「死ね」「嫌い」
「きもい」「自己中」「うざい」「むかつく」

IV 考 察

1 対象群・統制群におけることば使用の抵抗感

有意差が見られた「悪口を示すことば」については、全て統制群の方には抵抗感が高いという結果が出た。有意差のあった8つのことばのうち、身体的領域のものが一番多く、抵抗度得点も総じて高めであった。この身体的領域のことば使用への抵抗度得点の高さは、対象群間、統制群間、男女間においても同様であった。西野（西野 a, 1995）は、小学生から社会人までを対象とした調査の中で、外見の特徴を内容とする「悪口」は年齢とともに減少していく一方、行動や性格の特徴をついた「悪口」は増加していくことを明らかにし、この要因を「成長・発達に伴い人の評価が外見から内面や人間的配慮などを考慮に入れてくることによるの

であろう」としている。つまり、このことを「悪口」の使用頻度が減少するほど抵抗感が高く、使用頻度が増加するほど抵抗感は低いと解釈すれば、ある程度の年齢に達している大学生は対人関係の着眼点を内面や行動に重く置く傾向があり、それ故に身体的特徴をつく「悪口を示すことば」を人に対して使用することに抵抗を高く感じると、本調査結果においては言えるのかもしれない。また、本調査の全ての結果において、行動に関する領域、内面的領域のことば使用への抵抗度得点が総じて低かったことにも、これらのことが当てはまるのかもしれない。

場面については、②・④の「自分とそれほど親しくない人に対して使用」において有意差が多く見られ、統制群の方が特に親しくない人に対して抵抗感を高くもつ傾向が窺われた。対象群（福祉、看護、心理系の職業を目指している学生）の方がことばに対する意識が高く、「悪口を示すことば」使用の抵抗感も高いという作業仮説は棄却された。しかし、『言葉』は医療行為の基礎であり、土台となるもの（黒沢 b, 1999）、「カウンセラーは、クライアントに対して、共感と尊敬と思いやりを伴った関係を形成する必要がある」（坂口, 1991）と述べられているように、前述の職業に従事する人が職業場面で人との関わりにおいて、ことば使用に対する高い意識を求められるのは当然であると言えよう。では、なぜ本調査ではことば使用の抵抗感が対象群に低く示されたのだろうか。若林ら（1983）は、女子短大生の職業選択に関する調査の中で、専門性の高い学部の学生群では大学（短大）の教育を通して職業レディネス（職業人として自立する用意）が一様に一定水準以上に高められると報告している。本調査では大学1年生を対象としたため、大学での専門的な教育が途上の段階にあり、学生の職業意識が十分に高まっていないという可能性が考えられるだろう。よって、ことば使用に対する意識もこれから大学での教育等を通して高められていくのではないかと予想される。

また、本調査のことば使用の場面設定は一般的な状況であり、職業場面と直接結びついたものではなかったため、対象群の抵抗感が高い傾向を示さなかったとも考えられる。

2 対象群内におけることば使用の抵抗度

対象群内の比較では、看護学科が「悪口を示すことば」使用への抵抗感が一番高いという結果が出た。若林ら（1983）の調査では、看護系の学生は入学時から自分のなりたい職業を考えて第1志望で入学してきた者が多いと報告されており、このことから看護学科の学生は他の2学科の学生よりも職業意識が高く、ことばに対する意識も高いということが推察される。「死ね」ということばを使用することについて、有意差は見られなかったものの、4場面合わせた抵抗度得点は6群の中で看護学科が一番高かった。将来医療現場に携わるという職業イメージが比較的明確な群の特質とも考えられよう。社会福祉学科と臨床心理学科の抵抗感には、興味深い差異が見られた。①・②の「日常会話」の場面では、殆どのことばにおいて社会福祉学科が臨床心理学科よりも抵抗度が低いという結果が出たのに対し、③・④の「言い争い」の場面では、反対に殆どのことばにおいて臨床心理学科が社会福祉学科より抵抗度が低いという結果が出たのである。「悪口」が怒りの表現であるのと同時に、親しさの表現でもある両義性については、西野（西野 a, 1995）、黒沢（黒沢 a, 1999）が既に指摘しているが、このことを社会福祉学科と臨床心理学科の抵抗度の違いに援用することはできないだろうか。つまり、使用する相手にかかわらず、「日常会話」ではことばの使用に抵抗が低く、「言い争い」になると抵抗が高くなる社会福祉学科の学生は、「日常会話」という和やかな場面で、相手に対する『親しさの表れ』として「悪口」をコミュニケーションに取り入れているとも考えられよう。一方、使用する

相手にかかわらず、「言い争い」になると抵抗が低くなる臨床心理学科の学生は、「言い争い」という感情的な場面で、「悪口」を相手に対する『怒りの表現』として使用しているとも考えられよう。即ち、社会福祉学科と臨床心理学科では、「悪口」に対するとらえ方が異なっていると予想される。また、社会福祉学科は「デブ」「ブス」ということばに対して「① 日常会話の場面で、自分の親しい人に対して使用」において有意に抵抗度が低かった。女性なら敏感そうなこの2つのことばに対して、全員女性である社会福祉学科の学生の抵抗感が低いのは、もしかすると女性同士特有のコミュニケーションとして親しみを込めて2つのことばを人に使用しているということがあるのかもしれない。

3 統制群内におけることば使用の抵抗度

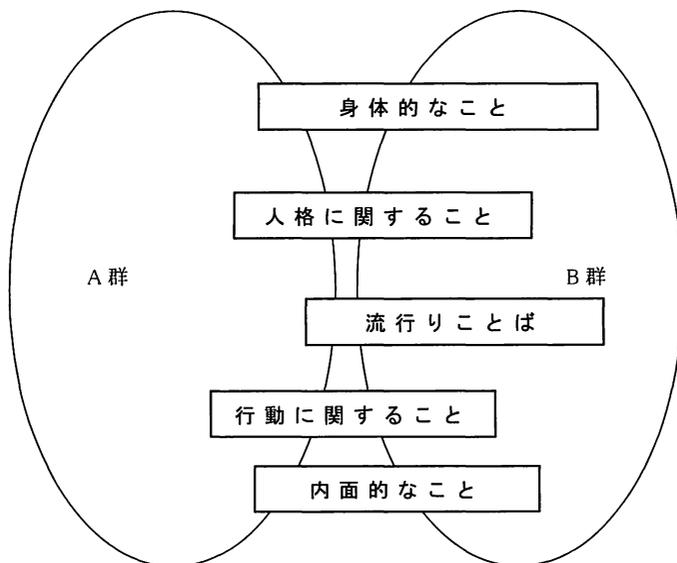
統制群については、教養学部が①・③の「自分の親しい人に対して使用」のときに、他の2学部の学生よりも抵抗度得点が有意に高い傾向が確認された。また、経済学部は②・④の「自分とそれほど親しくない人に対して使用」のときに、他の2学部の学生よりも抵抗度得点が有意に高く示された。この結果からも、教養学部と経済学部では、「悪口」に対するとらえ方が異なっていると予想される。また、工学部は全体的に抵抗度得点が低めであった。特に身体的領域のことば使用に対して抵抗感が低いという傾向が示唆された。工学部の学生は全員男性であり、このことが関係しているのかもしれない。

4 男女間におけることば使用の抵抗度

男女間においては、「悪口を示すことば」使用への抵抗感が全て女性群に有意に高い傾向が確認された。特に身体的領域のことば使用に対する抵抗感において顕著であった。これは、女性の方が外見的なことに敏感

であり、人にそれらのことばを使用することにもためらいを感じる傾向にあると考えられる。また、「④自分とそれほど親しくない人に対して使用」の場面においては、20項目のことば全てに女性群の抵抗度得点が高いことが確認された。感情的な場面においても、自分とそれほど親しくない人に対しては使用を控える傾向が示唆される。遠藤（1991）は、『国語学大事典』の説明を借りて、女性の語法の特徴を、固いことばや野卑、下品なことばを避け、敬語的表現、丁寧な言い方、婉曲な物言いや言い切らない表現が多いと述べている。この特徴が、女性群のことば使用への抵抗感の高さと関連している可能性があるだろう。

以上のことを踏まえ、図1のモデルは以下の図2のように修正された。



A：福祉、看護、心理系の職業を目指す学生群（対象群）
 B：上記の職業を目指していない学生群（統制群）

図2 本研究における修正モデル

V まとめ

本研究から、「悪口を示すことば」使用への抵抗感に関して、以下のよう
にまとめることができよう。

- 1) 対象群と統制群では、統制群において、「悪口を示すことば」使用
への抵抗感の高さが示唆された。これは作業仮説とは反対であった。
- 2) 対象群のみにおいて、ことば使用への抵抗感が高く示唆されたのは、
看護学科のみであった。
- 3) 身体的領域のことば使用への抵抗感是对象群・統制群とも高く、行
動に関する領域、内面的領域のことば使用への抵抗感は両群とも低
い傾向をもつことが示唆された。
- 4) どの群間比較においても、「自分とそれほど親しくない人に対して
使用」するとき、抵抗感が高く、とりわけ「言い争い」の場面につ
いては、その傾向が強く示された。
- 5) 対象群の抵抗感の低さについては、将来における職業意識の形成途
上との関連で、今後の検討が必要とされるべきであり、本研究の結
果から、一概に「対象群がことばに対して鈍感である」とは断定で
きないと思われる。

VI 本研究の限界と課題

- ・本研究では、大学1年生を調査対象としたため、職業意識に由来する
と思われる「悪口を示すことば」使用への抵抗度の差異が、対象群・
統制群において明確には示されなかった。今後の課題として、大学で
の専門的教育を受け、職業意識がある程度形成された学生等を対象と
した調査の必要性があろう。
- ・「悪口を示すことば」使用の場面において、厳密な状況設定をせず抽象
性を持たせたため、回答者によって置かれた状況場面に対する受け取

り方に差異が出てしまった。

- ・本研究では、「悪口を示すことば」を自分が使用する（自分が相手に対して言う）ということのみに焦点を絞り、その抵抗感を検討したが、今後の研究では、「悪口を示すことば」を自分が言うことへの抵抗度と同時に、「人から言われること」への抵抗感の両面から検討することが課題のひとつとして残った。

【謝辞】

まず、本調査票の回答にご協力くださいました、S 県立大学、私立 B 大学、国立 S 大学の学生の皆様に厚く御礼申し上げます。また、調査票の配布・回収にご協力くださった各大学の先生方に深謝いたします。さらに、「ことばと差別」について、国語学の視点から貴重なご助言を賜りました、文教大学文学部 遠藤織枝教授に、深く御礼申し上げます。

【文献】

- ・遠藤織枝 (1991) : ことばと女性, 国文学解釈と鑑賞, 第56巻7号, 至文堂, PP.30-33
- ・黒沢勉 a (1999) : 言葉と心ーコミュニケーションの世界ー, 信山社, PP.130-138
- ・黒沢勉 b (1999) : 言葉と心ーコミュニケーションの世界ー, 信山社, PP.186-191
- ・坂口哲司 (1991) : 看護と保育のためのコミュニケーションー対人関係の心理学ー, ナカニシヤ出版, PP.107-113
- ・西野美佐子 a (1995) : 悪口言葉に関する発達心理学的研究, 東北福祉大学研究紀要, 第20巻 (通巻23号), PP.194-196

- ・西野美佐子 b (1995) : 悪口言葉に関する発達心理学的研究, 東北福祉大学研究紀要, 第20巻 (通巻23号), PP.180-181
- ・西野美佐子 c (1995) : 悪口言葉に関する発達心理学的研究, 東北福祉大学研究紀要, 第20巻 (通巻23号), PP.191-193
- ・畑中高子 (2003) : 小学校における「ことばの暴力」に関する調査～問題点と解決策について～, 学校保健研究, 第45巻第2号, PP.151
- ・山田暁生 (1985) : 子どもと悪口ーその意識と実態, 言語生活, 筑摩書房, 第398巻2号, PP.66-68
- ・若林満、後藤宗理、鹿内啓子 (1983) : 職業レディネスと職業選択の構造ー保育系、看護系、人文系女子短大生における自己概念と職業意識の関連ー, 名古屋大学教育学部紀要ー教育心理学科ー, 第30巻, PP.82-91

【添付資料・調査票】

大学生の、「悪口を示すことば使用」に関する アンケートのお願い

現在、私は、卒業論文において、「大学生の悪口を示すことば使用」に関する調査研究を行っています。お手数ではありますが、以下のアンケートに対する回答のご協力をよろしくお願い致します。

なお、ここで得られた回答は全て統計的に処理され、回答者の方の個人的なデータのみが公表されることは絶対にありませんので、どうぞご安心下さい。

アンケートの回答をお願いする方は、現在大学1年生の方です。よろしくお願い致します。

調査者：文教大学教育学部学校教育課程
 特殊教育専修4年 大久保 山紀
指導教員：文教大学 助教授 八藤後 忠夫
*連絡先 文教大学 八藤後研究室
 TEL 048-974-8811 (内線272)

▼ はじめに、以下の欄に必要事項をご記入下さい ▼

性別	:	1. 男性	・	2. 女性	
年齢	:	_____	歳		
所属	:	_____	大学	_____	学部
		_____	学科		

いわゆる「悪口を示すことば」使用に対する抵抗感の検討

Q 1-1. このアンケートは2部構成になっています。まずは第1部の場面1です。

現在、あなたが、日常会話（軽い冗談などを交えたなごやかな会話）の場面で、自分の親しい人（家族・友人など）と話をしていると想定します。

そのような場面設定において、以下に挙げることばを、自分がその相手に対して使用する（言う）ことについて、あなたはどの程度の抵抗を感じますか。

あてはまるものを1つ選び、○をつけてください。そのことばを知らない場合は、6に○をつけてください。

	全く抵抗を感じない	あまり抵抗を感じない	どちらともいえない	やや抵抗を感じる	非常に抵抗を感じる	この言葉を知らない
<記入例> 1.「のろま」	1	2	3	4	5	6
1.「バカ」	1	2	3	4	5	6
2.「邪魔」	1	2	3	4	5	6
3.「うるさい」	1	2	3	4	5	6
4.「きもい」	1	2	3	4	5	6
5.「まぬけ」	1	2	3	4	5	6
6.「最低」	1	2	3	4	5	6
7.「自己中」	1	2	3	4	5	6
8.「とろい」	1	2	3	4	5	6
9.「ダサい」	1	2	3	4	5	6
10.「デブ」	1	2	3	4	5	6
11.「死ね」	1	2	3	4	5	6
12.「でしゃばり」	1	2	3	4	5	6
13.「ハゲ」	1	2	3	4	5	6
14.「ふざけるな」	1	2	3	4	5	6
15.「うざい」	1	2	3	4	5	6
16.「ブス」	1	2	3	4	5	6
17.「クライ（暗い）」	1	2	3	4	5	6
18.「嫌い」	1	2	3	4	5	6
19.「チビ」	1	2	3	4	5	6
20.「むかつく」	1	2	3	4	5	6

Q1-2. 続いて、第1部の場面2です。

現在、あなたが、日常会話（軽い冗談などを交えたなごやかな会話）の場面で、自分とそれほど親しくない人（顔見知り程度など）と話をしていると想定します。

そのような場面設定において、以下に挙げることばを、自分がその相手に対して使用する（言う）ことについて、あなたはどの程度の抵抗を感じますか。

あてはまるものを1つ選び、○をつけてください。そのことばを知らない場合は、6に○をつけてください。

	全く抵抗を感じない	あまり抵抗を感じない	どちらともいえない	やや抵抗を感じる	非常に抵抗を感じる	この言葉を知らない
<記入例>						
1. 「のろま」	1	2	3	4	5	6
1. 「バカ」	1	2	3	4	5	6
2. 「邪魔」	1	2	3	4	5	6
3. 「うるさい」	1	2	3	4	5	6
4. 「きもい」	1	2	3	4	5	6
5. 「まぬけ」	1	2	3	4	5	6
6. 「最低」	1	2	3	4	5	6
7. 「自己中」	1	2	3	4	5	6
8. 「とろい」	1	2	3	4	5	6
9. 「ダサい」	1	2	3	4	5	6
10. 「デブ」	1	2	3	4	5	6
11. 「死ね」	1	2	3	4	5	6
12. 「でしゃばり」	1	2	3	4	5	6
13. 「ハゲ」	1	2	3	4	5	6
14. 「ふざけるな」	1	2	3	4	5	6
15. 「うざい」	1	2	3	4	5	6
16. 「ブス」	1	2	3	4	5	6
17. 「クライ（暗い）」	1	2	3	4	5	6
18. 「嫌い」	1	2	3	4	5	6
19. 「チビ」	1	2	3	4	5	6
20. 「むかつく」	1	2	3	4	5	6

Q2-1. 次に、第2部の場面1です。

現在、あなたが、言い争いの場面で、自分の親しい人（家族・友人など）と激しく言い争っていると想定します。

そのような場面設定において、以下に挙げることばを、自分がその相手に対して使用する（言う）ことについて、あなたはどの程度の抵抗を感じますか。

あてはまるものを1つ選び、○をつけてください。そのことばを知らない場合は、6に○をつけてください。

	全く抵抗を感じない	あまり抵抗を感じない	どちらともいえぬ	やや抵抗を感じる	非常に抵抗を感じる	この言葉を知らない
<記入例>	1	2	3	4	5	6
1.「のろま」	1	2	3	4	5	6
1.「バカ」	1	2	3	4	5	6
2.「邪魔」	1	2	3	4	5	6
3.「うるさい」	1	2	3	4	5	6
4.「きもい」	1	2	3	4	5	6
5.「まぬけ」	1	2	3	4	5	6
6.「最低」	1	2	3	4	5	6
7.「自己中」	1	2	3	4	5	6
8.「とろい」	1	2	3	4	5	6
9.「ダサい」	1	2	3	4	5	6
10.「デブ」	1	2	3	4	5	6
11.「死ね」	1	2	3	4	5	6
12.「でしゃばり」	1	2	3	4	5	6
13.「ハゲ」	1	2	3	4	5	6
14.「ふざけるな」	1	2	3	4	5	6
15.「うざい」	1	2	3	4	5	6
16.「ブス」	1	2	3	4	5	6
17.「クライ（暗い）」	1	2	3	4	5	6
18.「嫌い」	1	2	3	4	5	6
19.「チビ」	1	2	3	4	5	6
20.「むかつく」	1	2	3	4	5	6

Q2-2. 最後に、第2部の場面2です。

現在、あなたが、言い争いの場面で、自分とそれほど親しくない人（顔見知り程度など）と激しく言い争っていると想定します。

そのような場面設定において、以下に挙げることばを、自分がその相手に対して使用する（言う）ことについて、あなたはどの程度の抵抗を感じますか。

あてはまるものを1つ選び、○をつけてください。そのことばを知らない場合は、6に○をつけてください。

	全く抵抗を感じない	あまり抵抗を感じない	どちらともいえない	やや抵抗を感じる	非常に抵抗を感じる	この言葉を知らない
<記入例>	1	2	3	4	5	6
1. 「のろま」	1	2	3	4	5	6
2. 「バカ」	1	2	3	4	5	6
3. 「邪魔」	1	2	3	4	5	6
4. 「うるさい」	1	2	3	4	5	6
5. 「きもい」	1	2	3	4	5	6
6. 「まぬけ」	1	2	3	4	5	6
7. 「最低」	1	2	3	4	5	6
8. 「自己中」	1	2	3	4	5	6
9. 「とろい」	1	2	3	4	5	6
10. 「ダサい」	1	2	3	4	5	6
11. 「デブ」	1	2	3	4	5	6
12. 「死ね」	1	2	3	4	5	6
13. 「でしゃばり」	1	2	3	4	5	6
14. 「ハゲ」	1	2	3	4	5	6
15. 「ふざけるな」	1	2	3	4	5	6
16. 「うざい」	1	2	3	4	5	6
17. 「ブス」	1	2	3	4	5	6
18. 「クライ（暗い）」	1	2	3	4	5	6
19. 「嫌い」	1	2	3	4	5	6
20. 「チビ」	1	2	3	4	5	6
21. 「むかつく」	1	2	3	4	5	6

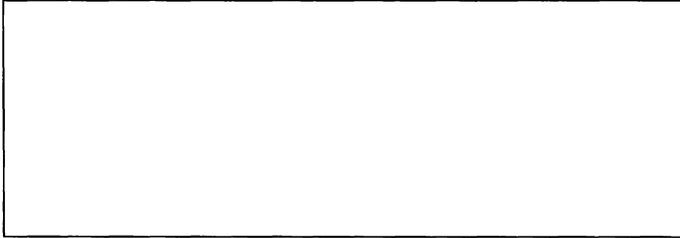
いわゆる「悪口を示すことば」使用に対する抵抗感の検討

質問は以上です。

調査にご協力下さいまして、本当に有難うございました。

ご意見・ご感想などございましたら、何でも結構ですので、是非こちら
にご記入下さい。

よろしくお願い致します。



ありがとうございました。